

疎外 人間が制度に支配され、本来のあり方を失うこと。個性や人格が社会関係の中に埋没して主体性を失うことで、他人や他の事柄に対してだけでなく、自分自身に対しても疎遠な感じにとらわれてしまう状態を「自己疎外」という。

た

体系

↓ システム (体系)

大衆 社会の大多数を占める大勢の人々。「市民」という語が自律的な存在という意味で使われるのに対して、「大衆」という語はメディアなどに影響されやすく、他者と同調しがちな人々という意味で使われることが多い。

↓ 市民

ダイバーシティ

↓ 多様性

他我 他者が持つ自分という意識。

関連 自我

意識したり行為したりする主体としての自分自身。

↓ 自我

多義的 複数の意味を持っていること。

複数の意味に解釈できること。

↓ 一義的

多元論 物事が一つの原理ではなく、多様な原理によって独立して成立していると考ええること。

↓ 一元論

他者 自分以外の存在。

対 自己 自分。己。

多神教 複数の神々を同時に信仰する宗教。神道やヒンドウ教など。

↓ 神

脱構築 デイコンストラクション

ある対象を解体し、そこにある有用な要素を用いて、別の何かを再構築すること。あるいは、二項対立に隠された矛盾を暴き出すための手法。元はフランスの哲学者ジャック・デリダが創り出した概念。脱構築の考え方に従え

ば、「**脱構築**」という**概念**も常に**脱構築**され続けなくてはならない。

タブー〈禁忌〉

もともとは、個人や**共同体**における行動のありようを規制する広義の**文化的規範**（宗教的に禁止されていることなど）。転じて**社会**において言及することがよくないと思われる事柄。

ダブルバインド

矛盾する二つの命令やメッセージを同時に受けて、板挟みになること。

多様性

ある集団の中に異なる特性を持つものが豊かに存在すること。ダイバーシティ。自然科学には種多様性、遺伝的多様性などの、社会科学には文化多様性、地域多様性などの**概念**がある。一種のものがさまざまに分かれていくことを「多様化」という。

他律

自らの意志ではなく、他からの命令、支配に従うこと。

対 自律

自分の意志で行動すること。自分で自分をコントロールすること。また、**ロボット**などが人間の制御によらず、自身で周囲の**環境**を判断して行動すること。

知

物事を判断したり認識したりすること。

秩序

↓コスモス〈秩序〉

抽象

物事の性質などの共通性を捉えること。

対 具体

それぞれに実体のある明確なあり方。

超越

普通の程度をはるかに越えること。あるものが別次元にあることを表す**概念**。

超現実主義

↓シュルレアリスム〈超現実主義〉

超克 困難を乗り越え、克服すること。

通時的

言語学者ソシュールの用語。関連する複数の**現象**や**体系**を、**時間の流れ**に沿って記述しようとする姿勢。

対 共時的

スイスの言語学者ソシュールの用語。ある**現象**を一定時期における静止現象と捉え、その構造を体系的に記述しようとする姿勢。

通念

一般に共通して認められている考え。

罪の文化

アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトが『菊と刀』で規定した、西欧の**文化**の特徴。西欧人は行為に対する**規範**的規制の源が内なる自己〈良心〉にあり、罪を犯さないことを第一にして、人々の行動が規定されているとした。

対 恥の文化

他者からの批判や嘲笑を避けることを行動**規範**とする日本的な**文化**。西欧の**罪の文化**に対して、日本の**文化**の特徴を規定したもの。日本人は行為に対する**規範**的規制の源が自己の外側〈世間〉にあり、恥をかかないことを第一にして、人々の行動が規定されているとする。

ディープラーニング

深層学習。人工知

能に、対象の全体像や細部など抽象度の異なるそれぞれの**概念**を、階層構造として関連させて学習させる手法。

ディスクール

↓言説〈ディスクール〉

ディスコンストラクション

↓脱構築〈ディスコンストラクション〉

テーゼ

措定。命題。事実を肯定したり、その内容を明記したりすること。

↓弁証法

テキスト

広義には、何らかの意味を読み解く対象全般をさす。狭義には、文章などの、つながりを持つ文の集合のこと。「テキスト論」とは、読者が作品をどう読むかという視点を取り入れた読解の考え方。文章は一日書かれると、作者自身との連関を断たれた**自律**的なものとなり、多様な読まれ方を許す。こうした考え方を、フランスの哲学者ロラン・バルトは「作者の死」と呼んだ。また、デリダは「言いたいこと」は純粹にそれだけとしてあるのではなく、言葉と不可分に結びついて成り立つと考えた。こうした「テキスト論」は、文章というものに**絶対の真理**（著者が言いたかったこと）を求める姿勢への批判であり、「**形而上学批判**」の一つと見ることができ。

テクノロジー

科学技術。工学的な技術を利用する方法。

デジタル化

連続する数値を離散的な数値に変換すること。**情報**をコンピュータで処理できるように変換すること。

関連情報

事象の内容や知らせ。判断に役立つ資料や知識。アナログな現実の世界をデジタルな信号に換えて、コンピュータが高速・大量に処理することで現代社会は成り立っていると言える。

デモクラシー**↓民主主義 ⇨デモクラシー****テロリズム**

政治的目的を達成するため暴力の行使を認める主義。二十世紀には、政治的要求や体制の打倒を目的とした国家に対する暴力の意味で使われることが多くなった。直接の攻撃対象だけでなく民衆の恐怖心をおおる行為である点で、従来の戦争やゲリラ戦と区別される。軍事的な勝利が見込めない場合にも政治的な目的のために実行される。ハイジャックや爆破などの

手段がとられ、心理的な効果をねらって多くの市民が行き交う公共の場や、経済的・政治的な要地が攻撃の対象とされることが多い。

当為

まさになすべきこと。まさにあるべきこと。ドイツ語Sollen（ゾルン）の訳語。

淘汰

よいものを取り、悪いものを捨てること。自然淘汰は、環境に適したものが生き残るという「**進化論**」の基本概念。

動的

ダイナミック。事象を**時間**に沿って変化するものとして捉えること。

対静的

スタティック。事象を変化しないものとして捉えること。または、ある一時点のみを切り取って捉えること。

特殊

普通と異なっていること。

対普遍

すべてにあてはまること。

ドグマ

宗教における教義。転じて「**独断・偏見的な説や意見**」の意。教条主義。

都市

政治・経済・文化・交通などの地域における中心で、人口が集中している領域。住人は主に第二次・第三次産業に従事している。第一次産業中心で、人口密度の低い村落に対置される。

トボス

ギリシヤ語で「場所」をさす語。何かの特別な意味を付与した「場所」について論じる際に使われる。

トリアージ

災害などで多くの傷病者が発生している状況で、傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を決めること。

トレードオフ

何かを得ると、別の何かを失うという状況のこと。たとえばものを買うということは、他のものを購

入る機会を失うという意味でトレードオフであると言える。

な

内発的 内部からの欲求に基づき、おのずとそうなるさま。

対 外発的 他からの刺激や影響によってそうなるさま。

内包 ある概念が適用される事物が持つ共通の性質のこと。

対 外延 ある概念が適用される具体的な事物の範囲のこと。

内面化 社会における価値や規範などを、自分のものとして受け入れること。

ナショナリズム 国民国家に基づいて、

国家や民族を統一しようとする思想。民族主義、国家主義。人が国家に帰属していると感じる感情。また、帰属する対象として国家を最優先させる思想や運動。国家は抽象的な**概念**であり、その構成メンバーなどを直接的にすべて把握することは不可能である。そのような抽象的なものに帰属意識を持つ心性は**近代**以降のものであり、家族や地域**社会**などの集団に帰属意識を持っていた前近代から変化した点である。国家に帰属意識を持たせるうえで学校や軍隊は大きな役割を果たした。また、**ナショナリズム**は、独立や民族解放運動など、多くの**民族**が政治や文化の主体となる契機ともなった。

↓ **グローバル化** (グローバルイゼーション)

ナッジ 人々の行動や選択を、強制によらず望ましい方向へと誘導すること。

二元論 物事を相対立する二つの原理によって説明しようとする考え方。デカルトの**物心二元論**が代表的。

↓ **一元論**

ニヒリズム 〈**虚無主義**〉 既存のあらゆる権威や社会秩序を否定する哲学的立場。

場。

ニユアンス 表現や感情の微妙な意味合い。

二律背反 二つの相反する命題が、同等の合理性や妥当性を持っていること。アンチノミー。

人間 物心二元論により、人間は精神を持つ唯一の存在として自然を支配するもの（主体）となった。「物質的な存在である自然は人間の支配の対象（客体）である」とする考え方を「人間中心主義」という。

認識 物事を意識し、その本質や意義を理解すること。

認知 対象を知覚し、それが何であるかを理論的に判断すること。

ネオリベラリズム〈新自由主義〉 個人の自由や市場原理を重視し、政府による個人や市場への介入を最低限にすべきたと主張する経済学上の思想。

↓ **リベラリズム**

↓ **リベタリアニズム**

ネガティブ 物事に対して消極的な様子。

対ポジティブ 物事に対して積極的な様子。

脳死 脳のすべての機能が回復不能と認められた状態。

↓ **生命倫理**

能動的 自ら進んで考え行動すること。
対受動的 他からの考えや行動を受け入れること。

は

パースペクティブ 遠近法。遠いものを小さく、近いものを大きく描く技法。または、物事を見る視点や立場。

バイアス 偏見や先入観、偏り。

媒体

↓ **メディア**

恥の文化 他者からの批判や嘲笑を避けることを行動規範とする日本的な文化。西欧の**罪の文化**に対して、日本の文化の特徴を規定したもの。日本人は行為に対する**規範**的規制の源が自己の外側〈**世間**〉にあり、恥をかかないことを第一にして、人々の行動が規定されているとする。

対罪の文化 アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトが『菊と刀』で規定した、西欧の**文化**の特徴。西欧人は行為に対する**規範**的規制の源が内なる自己〈**良心**〉にあり、罪を犯さないことを第一にして、人々の行動が規定されているとした。

パトス 情念。激情的、情熱的な精神。ギリシア語で「**受動的状態**」を意味する語。

↓ **ロソス**

ハラスメント 肉体的・精神的な苦痛を与え、相手を不快にさせたり不利益を与えたりする行為。人間としての尊厳を侵害する行為。地位などの優位性をもとに精神的・身体的苦痛を与えるパワーハラスメント（パワハラ）、性的言動によるセクシュアルハラスメント（セクハラ）、モラルに反する精神的な嫌がらせをさすモラルハラスメント（モラハラ）などがある。

パラダイム ある時代に支配的なものの見方。知の枠組み。アメリカの哲学者トマス・クーンが『科学革命の構造』

でこの語を用いてから学術的概念として普及した。自然科学の歴史は連続的な進歩ではなく、一定期間ある**パラダイム**に基づいて**科学**が発展し、その**科学**が行きつまり**パラダイム**シフトが起ること、断続的に進んだとする。

パラダイムシフト

パラダイムの変換。
天動説から地動説への移行、ニュートン力学から量子力学への移行など。

↓パラダイム

パラドックス

↓逆説(ハラドックス)

ハレ 儀礼や祭、年中行事などの非日常的なこと。

対ケ 日常のこと。普段の生活。

反証可能性

実験や観察によって、批判あるいは否定することができること。
イギリスの哲学者ポパーは、このような反証が可能なものが**科学**理論であるとし、**反証可能性を科学**と非科学とを分類する基準とした。

↓科学

ヒエラルキー ピラミッド型に序列化された階層構造。似た意味を持つ語に、インド社会で**歴史的**に形成された流動性のない身分制度に由来する「カースト」がある。ここから、学校空間における生徒間の身分制度的な階層を「スクールカースト」ともいう。

ビッグデータ 一般的なソフトウェアで扱うことが困難なほど膨大で複雑なデータ。経済、医療、防犯、交通などさまざまな分野で活用が進められている。

比喩

たとえば。「雪のように白い」など、たとえであることを明示する形式を「直喩(明喩)」といい、明示しない形式を「隠喩(暗喩・メタファー)」とく。

関連 隠喩(メタファー) 「よう

だ」「ごとし」などの語を使わず、**比喩**であることを明示しない形式の**比喩**。暗喩。「人生は旅だ」など。

ヒューマニズム

①ルネサンス期の「人文主義」。古典教養の中に**人間の理想**像を求めるもの。②近代に入って、**神**中心の世界観から**人間**中心の世界観に移行した「**人間中心主義**」。③人道主義・博愛主義。英語の原義にはない用法。

標準語

公用文や教育、放送などで用いる**規範的な言語**。明治政府が東京の山の手地区で使われていた**言語**を基に作った。

↓共通語

表象

イメージ。心に浮かぶ対象の像。
象徴・心象。記号・象徴を用いて経験を再現させる心的機能をさす場合もある。

平等

偏りや差別が無く、あらゆる人が皆等しいこと。一口に**平等**と言っても、何を等しくするか、どのように等しくするかによって、さまざまな種類の**平等**がありうる。代表的な区別の一つとして、財産などの最終的な分配結果を均等にする「**結果の平等**」と、財産などを得る機会を全員に等しく与える「**機会の平等**」がある。

↓フェア(公正)

風土

一般的に、その土地の気候・気象・地形・地質・景観などの総称。

↓環境

フェア(公正)

人やものの扱いに偏りがないこと。

↓平等

フェイクニュース

マスメディアやSNSなどの媒体で報道される、事実と異なる

なる情報。またはそのような報道そのもの。

フェティシズム 元は呪物崇拜をさす語であるが、現代では特定のものに対する極度な愛着を表す語として用いられることが多い。「フェチ」と略することがある。

フェミニズム 性差別を廃止し、抑えられていた女性の権利を拡張しようとする思想。ジェンダーなどの視点から家父長制的な前提の問い直しが求められる。

↓ジェンダー

不可逆性 元に戻れないこと。「不可能」はできない、という意味。

不確実性 その事象が確実に起こるかどうかが判然としないことをさす概念。「リスク」と同義に用いられる場合があるが、厳密には、「リスク」は発生する確率がある程度わかっている場合、「不確実性」は発生する確率がわからない場合という違いがある。

↓リスク

複雑系 数多くの要素で構成され、それぞれが複雑に絡み合った系またはシステム。脳・生命現象・生態系・気象現象・人間社会などがあげられる。個々の要素の振る舞いが、系全体に大きな影響を及ぼす一方で、その中にも一定の秩序が形成されるといった特性を持つ。

↓カオス〈混沌・渾沌〉

物質 物。物心二元論では、理性を持たず、空間に位置を占めるだけの存在。

物心二元論 精神と物質を別個の存在と捉え、世界は精神と物質という二つの実体から成り立っているとするデカルトの考え方。心身二元論。

普遍 すべてにあてはまること。

対特殊 普通と異なっていること。

プラットフォーム 官公庁の施策における「環境」「基盤」や、ソフトウェアやシステムにおける「動作環境」をさす。元は「周辺よりも高い水平で平らな場所」を広く表す語。

プロパガンダ 個人や集団を、特定の思想、世論、行動へ意図的に誘導する行為。政治宣伝。宣伝や広告は総じてプロパガンダであると言える。

文化 学問・芸術・宗教・道徳など、人間の精神的活動によって生み出され、人間生活を高めてゆくうえの新しい価値を生み出してゆくもの。生の営み。「文明」と同義に用いられる場合もあるが、「文化」は精神的なものに対して使い、「文明」は物質的に発達した社会の状態をいうという違いがある。

↓文化相対主義

文化相対主義 文化には優劣はなく対等であるとして、文化の多様性を認めて異文化を尊重する姿勢。

↓文化

分析 ある物事をいくつかの要素に分けることで、それらを成立させている成分や性質、構造などを明らかにすること。

分節 混沌とした世界を区切って秩序あるものとして認識すること。その区切り。

文明 人間の知恵が進んで、物心両面で生活が豊かになった状態。あるいは、精神文化と対比して、生活や秩序を支える物質文化をさす語。

↓文化

ヘイトクライム 人種、民族、宗教など特定の属性を持つ個人や集団に対する、偏見や憎悪によって引き起こされる。

る嫌がらせ、脅迫、暴行等の犯罪行為。

な様子。

弁証法 対立する二つの事項を統一、統合して、高い次元の結論に至る思考方法。指定〈**テーゼ**〉↓反指定〈**アンチテーゼ**〉↓総合〈**シンテーゼ**〉の三段階で説明するヘーゲルの**弁証法**をさすのが一般的。

関連 **テーゼ** 指定。 **命題**。 事実を肯定したり、その内容を明記したりすること。

関連 **アンチテーゼ** ある**命題**に対する否定的主張。 反指定。

関連 **シンテーゼ** 相互に矛盾する概念を統合すること。

関連 **アウフヘーベン** 〈**止揚**〉 矛盾や対立をより高い次元で一つの結論に統一すること。 **弁証法**により望ましい結論に至ること。

方言 共通語とは異なり、特定の地域で使われている言語。

↓ **共通語**

封建制度 君主が自身に忠誠を誓って主従関係を結ぶ領主や家臣などに土地を領有させ、その土地に住む人民を統治させる**社会制度**。あるいは領主が農民に対して**絶対的な支配**関係を敷いている制度など。さまざまな国・時代の制度が「**封建制度**」と呼ばれるが、その内容は必ずしも一様ではなく、見方によっても「**封建制度**」の範囲は異なってくる。日本史においては鎌倉時代から江戸時代までの武家支配時代を封建時代といふことが多い。「封建的」はこうした**社会**における典型的な価値観を表す語で、専制的、因習的なさま、上下関係を重んじて**自由**などを軽視するさまをさしている。

ポジティブ 物事に対して積極的な様子。

対 **ネガティブ** 物事に対して消極的

ポストコロニアリズム 植民地支配の後も続く影響、差別的な状況を明らかにしようとする立場のこと。ポストコロニアルは「植民地以後」という意味。「ポストコロニアル理論」とも言う。

旧植民地は独立後も旧宗主国の影響下で、種々の問題を抱えてきた。植民地時代の対立構造による内戦、植民地以前の生活の復興を旨とする人々と**近代的**な生活を旨とする人々との対立、旧宗主国の**経済的支配**の継続や、**経済的支援**の停止による貧困などである。こうした状況に対して、人類学、歴史学、政治学、哲学、社会学などさまざまな分野から批判的な分析が行われている。

↓ **オリエンタリズム**

ポストモダン 「ポスト」は次、後という意味。もとは、機能主義と合理主義に基づく近代建築〈モダニズム〉を脱しようとする新たな建築方式をさす。そこから派生して、**近代的な社会・制度・思想**等を批判し、消費社会や情報社会と呼ばれる現代に対応した知のあり方を模索する**思想的・文化的な傾向**をさすようになった。リオタールは、**近代**には**社会**や**自由**は発展・拡大していくといった「**大きな物語**」が信じられていたが、現代では情報化が進み、価値観が多様化したため、一方的な右肩上がりの「**大きな物語**」は終焉したとした。また、ドゥルーズ、デリダ、フーコーなどの活動した「**ポスト構造主義**」のことを「**ポストモダン**」ということもある。

↓ **近代** 〈**モダン**〉

↓ **構造主義**

ポピュリズム 大衆の利益・権利・願望を代弁し、大衆の支持を得ようとする政治姿勢。庶民的感情や常識によってエリートの腐敗や特権を是正する方向に向かう可能性がある一方、大衆の欲

求不満や不安をおおって支持を取りつ
けると、民主政治が衆愚政治化し、庶
民のエネルギーが集団的熱狂に向かう
可能性がある。

↓大衆

本質主義 個別の事物には変化しない本
質が必ずあり、それによって内実を規
定されていると考えること。

対 構築主義 ある事柄を、社会的に
作られたものと考え変更可能だと見な
す立場。これに対して、ある事柄に対
して、変更不可能のものだと見なす立
場を**本質主義**という。たとえば「男女
差」について、「社会的に構築された
もの」と考えるのは**構築主義**、「生得
的で変更できないもの」と考えるのは
本質主義にあたる。

ま

マイノリティー 少数派。人種や宗教な
どの面で**社会**の少数派に属し、弱い立
場にいる存在。

対 マジョリティー 多数派。声高に
自分の政治的意見を唱えない一般大衆
を「サイレントマジョリティー」(物言
わぬ大衆)という。

↓性的少数者

マクロ〈巨視的〉 ①大きい。長い。②
見方が大きくて全体的であること。マ
クロスコピック(巨視的)の略。

対 ミクロ〈微視的〉 ①ごく小さい
こと。微小。②全体ではなく、狭い範
囲で細かく見ること。ミクロスコピッ
ク(微視的)の略。

マジョリティー 多数派。声高に自分の
政治的意見を唱えない一般大衆を「サ
イレントマジョリティー」(物言わぬ大
衆)という。

対 マイノリティー 少数派。人種や
宗教などの面で**社会**の少数派に属し、
弱い立場にいる存在。

マスメディア 不特定多数の人々に情報
を伝える**メディア**。新聞・テレビなど
が代表的なもの。

見えざる手 市場において、各個人の利
己的な行動が結果的には**社会**全体の利
益につながることをたとえ。

ミクロ〈微視的〉 ①ごく小さいこと。
微小。②全体ではなく、狭い範囲で細
かく見ること。ミクロスコピック(微
視的)の略。

対 マクロ〈巨視的〉 ①大きい。長
い。②見方が大きくて全体的であるこ
と。マクロスコピック(巨視的)の
略。

民主主義 ≪デモクラシー≫ 人民が**権力**
を握り、それを自ら行使する政治形

態。**デモクラシー**という言葉の起源は古代ギリシアの時代に遡るが、**民主主義**が現代的な政治体制として確立するのは十七、十八世紀の市民革命以降のことである。君主制や貴族制、**全体主義**などと対比される。非民主主義的な政体を「**権威主義**（**権威主義政体**）」と総称することもある。

民族 言語などの文化を共有する集団。

↓**ナショナリズム**

無意識 ①理由などをはっきり意識することなく行動するさま。②**自我**では把握できないが日常の行動や**精神**に影響を与えている心の深層のこと。オーストリアの精神医ジークムント・フロイトが提唱し、**シュルレアリスム**などに影響を与えた。

無機的 無機物のように生命の感じられない温かみのない様子。

対有機的 有機体、あるいは生命体のように各部分が密接に関わってまとまっている様子。

無常 仏教用語。この世にあるものは常に少しずつ変化し続けており、そのままではいられないという思想。

命題 ある判断を言葉で表したものの。真か偽かが明確に区別できる言明。

メタ 「あとに」という意味の古代ギリシャ語。転じて「超越した」、「高次の」という意味の接頭辞。あるものを外側に立って見る事を意味する。たとえば、あるデータがどのような性質を持つかを示すデータを「**メタデータ**」、自身の認知がどのようなものであるかを認知することを「**メタ認知**」という。

メタファー

↓**隠喩**（**メタファー**）

メディア ①**コミュニケーション**の際、媒介となるもの。②**情報の記録・伝達**・保管などに用いられる物や装置。**媒体**。

↓**コミュニケーション**

メディア・リテラシー 情報を理解し、活用する力。その情報がどんな意図で作られ、送り出されているかを自分で判断する能力。

↓**コミュニケーション**

メンズリブ 男性が自身の**性規範**を批判的にとらえ、従来の男性観を問い直し、見直そうとする思想や運動。

↓**ウーマンリブ**

↓**フェミニズム**

モード 形式。様式。方法。スタイル。流行。

モダン

↓**近代**（**モダン**）

モチーフ 芸術作品で、表現の動機・きっかけとなる思想や題材。

モノのインターネット（IoT**）**

Internet of Things。さまざまなモノをインターネットに接続し、相互に情報交換させたり、制御したりする仕組みをいう。外出先から遠隔操作できる家電製品や車の自動運転、リアルタイムで健康状態をモニタリングする医療機器などに活用される**技術**。

模倣 まねること。創造の対義語として否定的に用いられることもあるが、**人間が言語や生き方を模倣**によって習得していることなど、肯定的な側面もあることに注意が必要である。

モラトリアム 原義は一時停止や猶予のこと。社会心理学では、学生などが社会に出て一人前の人間となるのを猶予されている状態をさす。日本語では

「義務・責任を先延ばしにしている状態」をさして否定的に用いられる場合もある。

モラル

↓ 倫理へモラルへ

や

唯心論 物質の実在を認めず、万物の本質は心やそのはたらきにあるとする考え方。唯物論と対立する。

対 **唯物論** 万物の本質は物にあり、精神や心なども物質であるとする考え方。

唯物論 万物の本質は物にあり、精神や心なども物質であるとする考え方。

対 **唯心論** 物質の実在を認めず、万物の本質は心やそのはたらきにあるとする考え方。唯物論と対立する。

有機的 有機体、あるいは生命体のように各部分が密接に関わってまとまっている様子。

対 **無機的** 無機物のように生命の感じられない温かみのない様子。

幽玄 物事の趣が深くはかりしれないこと。仏教や老荘思想など、中国思想の分野で用いられる漢語であったが、日本では中世ごろから、和歌を批評する用語として用いられるようになった。

ら

リアリズム

①現実の事態を重視し、理想的な考え方を排斥する立場。現実主義。②現実を客観的に捉えようとする芸術的な立場。写実主義。

関連

シュルレアリズム 超現実主義

義

不合理で非現実的な世界を描くことで人間の解放を目ざした芸術運動。

↓ロマン主義

リスク

悪い事象が起こる可能性。リスクの大小は「悪い事象」の重大性と、それが起こる可能性の兼ね合いから決まる。

↓不確実性

リスク社会

富の生産と分配ではなく、リスクの生産と分配が大きな問題となった社会をさす概念。ドイツの社会学者ウルリッヒ・ベックによって提唱された。現代ではリスクはグローバルに作られ、被害も広範囲に及ぶ場合がある。また、一般人の感覚や知識ではリスクを理解できない可能性が高まり、対処が難しくなっている。

理性

合理的に判断し、行動する能力。知。個人は理性によって統御されるべきとするのが近代の考え方。

対

感性 外界の刺激を五感で受け止める能力。

リソース

資源。物質的なものに限らず、資源となりうる要素を抽象的に表す用語として使われる。人、施設設備、資金、ネットワーク、データの記録領域など。

リテラシー

読解し記述する力。転じて「適切に理解し、記述、表現すること。活用能力。」といった意味で使われる。

↓メディア・リテラシー

リノベーション

既存の建物に大規模な改修を行い、用途などを変更して付加価値を与えること。広く、刷新、革新などの意味で用いられることもある。

リバタリアニズム

個人的な自由と経済的な自由の双方を重視する立場。経済的な自由を重視するネオリベラリズムと似ているが、リバタリアニズムでは個人的な自由をも重んじる。他者の身体や正当に所有された物質的、私的財産を侵害しない限り、すべての行動は自由であるとする。リバリズムは、貧困者や弱者の救済として国などが富の再分配を行うことを肯定するが、リバタリアニズムはこれらを認めない。このような立場をとる人を「リバタリアン」という。

↓リバリズム

リベラリズム

自己と他者双方の自由を尊重する社会的公正を指向する立場。政府による制限や介入をなくすことを求めるリバタリアニズム、ネオリベラリズムとは異なり、政府などによる積極的な介入も必要であると主張する。

関連

ネオリベラリズム 新自由主義

義

個人の自由や市場原理を重視し、政府による個人や市場への介入を最低限にすべきだと主張する経済学上の思想。

↓リバタリアニズム

両義的

相反する二つの意味を同時に持ち、どちらにも取ることが可能なこと。

↓一義的

倫理〈モラル〉

善悪を判断するための規範。人として守るべき道。

ルネサンス

ギリシア、ローマの文化を復興しようとする文化運動。元は「再生」「復活」などを意味するフランス語。十四世紀にイタリアで始まり、やがて西欧各国に広まった。また、これ

らの時代（十四世紀～十六世紀）をさすこともある。人間らしさや個性を尊重し、人々を宗教的束縛から解き放った運動とも捉えられる。

ロゴス 言葉、論理、理性などを表すギリシア語。

↓**バトス**

冷戦 第二次世界大戦後の世界を二分したアメリカ合衆国を盟主とする**資本主義・自由主義陣営**（西側諸国）と、ソビエト連邦を盟主とする**共産主義・社会主義陣営**（東側諸国）との対立構造をいう。直接的な武力対決ではなかったことから「冷たい戦争」と呼ばれた。米ソ冷戦。東西**冷戦**。一九八九年十二月に、地中海のマルタ島で、ソ連大統領ミハイル・ゴルバチョフと米国の大統領ジョージ・ブッシュが会談し、**冷戦**の終結を宣言した。ここから転じて、外面的な実力行使を伴わない対立が続くことを、**冷戦**状態と表現する場合がある。

歴史 人間社会の変遷とその記録のこと。ある時点までに起こった出来事すべてを記録することは現実的に不可能なため、**歴史**はその時点の価値観から取捨選択され、意味づけられたものになる。

レジリエンス 心理学で、変化に対処する能力。「抵抗力」「復元力」「耐久力」「再起力」などとも訳される。物理的な「弾性」「弾力性」の意味もある。

レトリック 文章表現の効果を高める技術。**比喩**、対句、倒置法など。修辭法。実質を伴わない表現上だけの言葉や表現の巧みな言葉などに対して、否定的な意味で使われることがある。

ローカル 一定の地方、地域に限られているさま。**文化**、風習、**環境**などに対していう。「**グローバル**」と対立する概念として用いられることもある。

ロボット 人間の代わりに何らかの作業を行う機械装置や人間を模して作られた機械、あるいは、ある作業を自動的に行う機械のこと。チェコスロバキアの作家カレル・チャペックの戯曲で用いられた造語。チェコ語で「労働」を意味する robot に由来する。**ロボットの**定義は様ではなく、たとえばロボットアームのように人が遠隔操作する機械や、着用した人の動きをサポートするパワードスーツなども**ロボット**に含む場合がある。ペットロボットは人間を模しておらず、人間の代わりに作業もしないが、**ロボット**に含まれる。一方で、エスカレーターや工場の重機などは、人間の代わりに作業を行うものであるが、**ロボット**には含まれない。人間の**身体**の一部を人工物や装置で置き換えたり埋め込んだ状態も「サイボーグ」として**ロボット**とは区別される。

ロマン主義 近代合理主義に対して人間の個性と感情を重視する芸術上の立場。十八世紀から十九世紀のヨーロッパで、**啓蒙思想**に対抗して起こった。**対 啓蒙思想** 近代の合理的精神に基づいて、迷信・偏見・宗教的権威などを不合理なものとして取り払い、**理性**の自立を促す思想。英語の「the Enlightenment」を訳し、エーロツパの多くの言語で「光で照らすこと」という意味の語が当てられている。啓蒙主義。

や
ら
わ

わ

わび 日本的な美意識の一つ。質素な中に心の充足を見いだす精神。飾りを捨てた質素でひっそりとした趣。

関連 さび 「わび」同様、日本のな美意識の一つ。古びたものを感じる静かで落ち着いた趣。